

<目的> アルミニウムの経口摂取量およびその体内吸収・蓄積の可能性を知ることは、人体への影響を知る上で意義深い。そこで日常摂取されることの多い緑茶，紅茶，ウーロン茶，コーヒーおよびビール中のアルミニウム含有量を測定すると共にそれらのイオン化について検討した。

<方法> 試料の緑茶，紅茶，ウーロン茶は4訂食品標準成分表に従って滲出後No. 5 Cのろ紙でろ過したものをを用いた。コーヒーは顆粒状のインスタントコーヒー2 gを90°Cの熱水140 mlに溶解した後ろ過したものを，ビールはNo. 5 Cのろ紙でろ過したものをを用いた。これらの一部をテフロンボトルに秤取し，混酸を加えてマイクロ波加熱分解（FLOYD RMS-150）後，原子吸光分光光度計（（株）日立製作所製 Z 9000形）で全アルミニウム量を測定した。また，同試料溶液を適宜 100ml容コニカルビーカーに秤取し，塩酸で pH1.8に調整した後37°Cに一定時間保持し，クロムアズロールS吸光光度法により波長 620nmでアルミニウムイオン量を測定した。なお，対照としてpH処理せず37°Cに1時間放置したものをを用いた。

<結果> ①緑茶および紅茶滲出液のアルミニウム含有量は多かったが，pH処理したもののもしなかったものもアルミニウムはイオン化しなかった。②ウーロン茶はpH1.8にしたもののもしなかったものもアルミニウムの一部がイオン化していた。③インスタントコーヒー溶液中のアルミニウムはpH1.8にすることにより一部がイオン化した。④ビールは長期間保存することによりアルミニウムイオン量が増加した。